



# ひなどり

園だより 10月号  
平成29年9月28日  
新潟市立新津第三幼稚園

## 「線や面の体験」で、それらが学力の基盤になる

園長 間嶋 哲

「結局、学力は読書と体験の豊かさがすべてですよ。」 私が若かりし頃、新潟大学教育学部附属新潟小学校に勤めていた際に、当時の副校長が常におっしゃっていた言葉です。

先日の梨狩りの様子を見ていて、私は、その言葉を改めて思い出しました。梨を、梨の木から収穫するという「点の体験」ではなく、足下がでこぼこして雨になればぬかるむ地面を歩くこと、あるいは、あちらこちらにすでに落ちてしまっている梨は、残念ながら、もう収穫できないのだという事実に気付くこと、さらには、梨にも様々な品種があつて、すぐに採ってはいけないものもあることなどを「線や面の体験」と捉えることが大切なのです。実際、子どもたちの中には、地面に落ちている梨を拾おうとして、「それは違うよ」と、あわてて戻されていた子どももいました。地面に落ちていた梨の中には腐りかけていて、もうこれはさすがに無理だなあという梨がある反面、明らかに売り物にできそうな綺麗な梨もあるわけなので、子どもたちの気持ちも分かりました。

こうした一連のことが、すべて「線や面の体験」です。そこに行ってみなければ分からない、やってみなければ分からないことばかりなのです。

梨園の帰り、近くの公園に寄って、1時間ばかりの自由時間がありました。私が驚いたのは、この自由時間を、子どもたちは思う存分に楽しんでいたということです。最初、もしかすると、何をしようか戸惑い、先生と一緒に過ごす子どももいるのかなあと感じていました。そんな心配は、杞憂に終わりました。みんなで遊具を使うときは、時にはお友達と「交渉」し、時には「譲り合い」の姿が見えたのです。また、傾斜がある坂のようなところから体を投げ出して、横にコロコロ転がって落ちていくことを楽しんでいる子どももいました。自分の体が重力に任せ、あたかもドンダンのように転がっていくこと自体を、心から楽しんでいるのです。体を使って夢中になって遊ぶことの大切さを、あらためて実感しました。

さて、一方の読書活動については、いかがでしょうか。

まだ字が読めない子どもには、自分で絵本を斜め読み(?)することも、おうちの方が読み聞かせられることもあろうかと思えます。最近の研究によると、読み聞かせの効果は、小学校高学年でもあるとのこと。ぜひ、様々な本を読み聞かせてあげてください。

どんなことにも興味関心の芽を持つこと、自分が好きなことに没頭できる集中力を持つこと、読書を通して豊かな想像力を育むこと等を、幼稚園時代だからこそ大切にしていきたいものです。

